

栃木医療センター 広報誌

No.42 2020 April

理 念
信頼 貢献 協働



Contents

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| ●診療科紹介（皮膚科）……………1 | ●合同医療セミナー……………5 |
| ●災害訓練・災害研修／消防訓練……………2 | ●連携医紹介（本町内科クリニック）……………6 |
| ●病棟紹介（1階病棟）……………3 | ●日常でできる身近な感染防止対策／ |
| ●病棟紹介（2階病棟）……………4 | 交通のご案内……………裏表紙 |

独立行政法人国立病院機構 栃木医療センター

皮膚科では皮膚疾患全般を幅広く診療しています。平成26年より皮膚科学会専門医研修施設として認定され、現在は常勤医2名、非常勤医1名の体制で診療に取り組んでいます。

皮膚は身体の最外層にあり外界との境界部にある臓器のため、外部環境の影響も受けるとともに体内環境からの影響も受けています。皮膚疾患は外部要因によって引き起こされるものが多いですが、全身疾患や内臓疾患が原因となったり、悪化因子として作用したりすることがあります。当科では必要かつ十分な検査を行うこと、また疾患の原因や増悪因子を突き止めることを心がけて、迅速な診断に努めています。また治療については、外用療法、手術療法、光線治療等の理学療法、生物学的製剤や免疫用製剤による薬物療法などを組み合わせて治療しています。

当院の特徴としては、中等症から重症なアトピー性皮膚炎や乾癬に対する生物学的製剤による治療を行っています。また、皮膚腫瘍（良性・悪性）に対する手術治療、薬疹、自己免疫性水疱症や感染症などについては必要に応じて入院治療を行っています。

■ 外来治療

比較的重症の乾癬、掌蹠膿疱症、アトピー性皮膚炎、痒疹、長期間遷延性の蕁麻疹などの長期的管理が必要な慢性皮膚疾患を治療しています。また、SLEや強皮症などの膠原病の皮膚症状、薬疹や感染症などの急性皮膚疾患については迅速な診断や適切な治療を心がけています。また、地域の開業医療機関からの専門的な検査の依頼に対応して、プリックテスト、パッチテスト（金属類、スタンダードシリーズ）、光線テストやダーモスコピーなどの検査を行っています。

■ 入院治療

带状疱疹、蜂窩織炎などの急性皮膚感染症、全身の皮膚科的処置やステロイド投与が必要な天疱瘡や類天疱瘡などの自己免疫性疾患、重症薬疹は入院して治療を行っています。また、有棘細胞がんや基底細胞がんなどの術後安静が必要な腫瘍性疾患も入院して治療することがあります。

■ 手術治療

ほくろ、粉瘤や脂肪腫などの比較的小さな腫瘍は、外来での日帰り手術を行っています。有棘細胞がん、基底細胞がん、ボーエン病などの皮膚悪性腫瘍は植皮や皮弁形成による再建など専門の手技による手術を行っています。

■ 特殊治療

生物学的製剤を用いた治療を行っています。乾癬にはレミケード、ヒュミラ、コセンティクス、トルツ、ルミセフ、ステララ、トレムフィアの7剤が使用可能です。難治性の慢性蕁麻疹にはゾレア、比較的重症なアトピー性皮膚炎にはデュピクセントの治療も行っています。

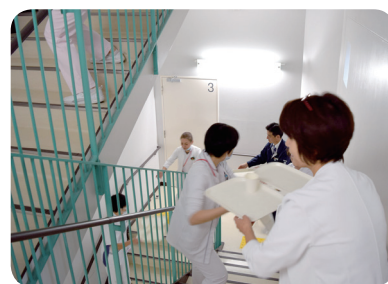
ほかに、円形脱毛症に対してステロイドパルス療法、ステロイド局注療法、局所免疫療法（SADBE）やNB-UVBによる光線治療を行っています。

災害訓練・災害研修の実施について

管理課 庶務係長 小湊 憲一郎

2019年11月27日（水）に院内で災害訓練及び災害研修を実施しました。当日は50名以上の職員が参加しました。災害訓練の内容はテント設営、患者搬送、配膳訓練など多岐に渡りました。テント設営や階段での患者搬送、配膳など慣れない作業に苦労することもありましたが、職員一丸となって力を合わせると不思議とうまくできてしまうので非常に感銘を受けました。また、災害研修については畠山外来診療部長より全職員を対象として災害医療や災害マニュアルについて講義がありました。内容は実際の事例を踏まえつつ、災害マニュアルの変更点を解説するなど実践的な内容でした。

当院は栃木県災害拠点病院でありますので、いつ災害が起きても対応できるように訓練や研修を行い、日頃から備えていきたいと考えております。



消防訓練について

管理課 庶務係長 小湊 憲一郎

2020年1月16日（木）に院内で消防訓練を実施しました。当日は昼間にリハビリ棟の栄養管理室から出火したという想定でした。職員の方々の迅速な対応のおかげで火災発生から消防署への通報、院内放送、避難誘導、初期消火、避難患者の搬出完了まであっという間に訓練が行われ、終了しました。消防訓練の後に、消防署の立会いのもと訓練用の消火器を使った消火訓練も行われました。最後の院長の講評でも話しましたが、火災が発生した時は初期消火が大切であると強く感じました。



1 階 病 棟

1 階病棟 看護師長 平山 由希子

自部署は2014年から運用開始した新病棟の1階にあり、整形外科単科52床の病棟です。手術を受ける患者がほぼ100%であり、交通外傷や高齢者の転倒などによる受傷が多いのが特徴です。年間の総手術件数は701件、中でも外傷患者に対して行う観血的整復固定術が204件であり、全体の29%を占めています。平均患者年齢は76.9歳であり、75歳以上の患者は全体の64.3%を占め、転倒による頸部骨折で入院してくる患者は高齢者がほとんどです。平均在院日数は18.5日と病院全体の11.9日を大幅に上回っています。入院前のADLにいち早く戻すための早期離床がすすめられていますが、少子高齢化に伴い独居や老老介護、認知症の問題も多く、術後のADLの低下により退院調整に困難をきたしている現状が見受けられます。受傷により突然日常生活が分断され、術後ADLが元に戻りにくいという現状の中で、退院調整は重要な役割を担っています。

突然の入院により、地域社会から切り離された患者を再び在宅につなげるために、「生活」に軸足を置いた医療を担う看護師が医療チームの中心として活躍していくことが必要であると常に考えています。病棟スタッフ全員が退院支援について自信を持ち、積極的に関わることができるよう、毎週のカンファレンスや勉強会を通して、一人一人が患者の退院後の生活をイメージして関わっていきえるように努力をしています。また、チーム活動も非常に大切に考え、ソーシャルワーカーや連携室、医師とのコミュニケーションを重視した退院調整に力を入れています。ポジティブマネジメントを取り入れ、学習する組織を目指し、それぞれの強みや良さを引き出す関わりを目指しています。

また、スタッフは30名おり、明るい雰囲気の中でも、人の立場に立ち、痛みがわかる看護師でいられるように日々努力しています。



2 階 病 棟

2階病棟 看護師長 渡辺 恵美子

2階病棟は、脳神経外科・外科・総合内科の混合病棟で、HCU（ハイケアユニット）4床を含む50床の病棟です。年間、約880名の入院患者を受け入れ、約350件の手術の対応をしています。入院患者の半数以上は脳神経外科の患者で、脳梗塞・くも膜下出血などの脳卒中や頭部外傷で急に発症し、緊急入院する患者が多いです。また、外科では肝腫瘍や胆石などで手術を必要とする患者や化学療法を行っている患者が多く入院しています。当院には3病棟にわたり12床のHCUがありますが、当病棟のHCUはICUとしても機能できるよう、設備の整ったHCUとなっています。HCUには脳卒中の急性期や肝臓切除などの大手術後、心不全などの重症患者が入院し、日々、生死と隣り合わせの患者の看護にあたっています。重症ケアや急性期看護と共に幅広い診療科の特徴を捉えた看護を行っています。

一般病床では、脳卒中などを突然発症し、麻痺や失語症などの機能障害により、いままでどおりに生活することが困難となる患者が多くいます。残存機能の維持やADL向上に向けたリハビリテーション看護にも力を入れています。また、患者・家族はいままでとの身体の変化に不安を抱えています。そのため、退院後の生活について、医師・看護師・薬剤師・リハビリテーションスタッフ・栄養士・ソーシャルワーカーなどの多職種が集まり、患者の状態を幅広くカンファレンスし、患者・家族の不安が少しでも軽減できるよう入院時から退院支援に努めています。

入院患者は超急性期から回復期まで幅広く、重症ケアや緊急時に対応するため新人看護師から先輩看護師まで知識と技術の向上を図りながら、思いやりのある医療、看護を提供できることを目指しています。



国立病院機構栃木医療センター・宇都宮医師会 合同医療セミナーについて

臨床研究部長 加藤 徹

国立病院機構栃木医療センター・宇都宮医師会 合同医療セミナーは、当院の地域医療研修センター講堂で開催される歴史ある会でこれまでに212回が開催されました。福島第一原発事故後の小児甲状腺腫瘍の実態について福島県立医科大学医学部放射線学教授に講演いただいたり、高齢者の免許証について宇都宮警察署に講演いただいたこともあります。毎回、時宜にかなったテーマを選ぶようにしています。新任医長・新任部長が赴任した際は、診療内容の紹介を兼ねて講師をお願いすることもあります。

第213回は「健康の社会的要因と多職種連携」をテーマに、内科千嶋医師、「えんがお」代表濱野さま、とちぎユースサポーターズネットワーク代表岩井さまに講演いただきました。

第212回は「循環器は冠動脈疾患だけではなく～徐脈性不整脈と末梢血管疾患の治療」をテーマに、循環器内科諏訪医師、循環器内科足立医長に講演いただきました。

第211回は「消化器領域の最新治療」をテーマに、消化器内科吉竹医長、消化器内科小池医長、外科鈴木部長に講演いただきました。

第210回は「ポリファーマシーを考える～処方適正化をめぐる問題～」をテーマに内科矢吹医長に講演いただきました。

第209回は「脳卒中急性期治療」をテーマに、石原統括診療部長、脳神経外科倉前医長に講演いただきました。

第208回は「漢方の基本「気血水」、耳鼻科・内科・整形の漢方」をテーマに、金子耳鼻咽喉科クリニック院長 金子先生、宇都宮漢方懇話会 会長 戸村先生、「瘀血に関する関節痛」松村外科整形外科院長 松村先生に、講演いただきました。

第207回は「医療における音楽療法・アロマ療法」をテーマに、声楽家 ボイストレーナー 合唱指揮者 鈴木先生、日本音楽療法学会認定音楽療法士 金子先生、一般社団法人 日本タッチングケア協会代表理事 外尾先生に、講演いただきました。

近年は、年2回、火曜日午後7時から午後9時に開催しています。医師会の先生方のほか、院内職員のみなさまにも積極的に参加いただければ幸いです。ほかではなかなか聴けない話が聴けるかもしれません。セミナーで取り上げてほしいテーマがありましたら、ぜひご連絡ください。



本町内科クリニック

院長 渡辺 秀考

旧今市市で開業する本町内科クリニックの渡辺と申します。

獨協医科大学病院に勤務していた時は、消化器内科の内視鏡グループに属し、早期胃癌を内視鏡で切除する手技（早期胃癌粘膜下層剥離術）や拡大内視鏡を用い大腸の腫瘍の表面の模様（表面構造）を観察して良性か悪性かの判別、深達度診断（内視鏡で切除するか外科で手術するかの診断）などに従事していました。もっと若手のときは胃酸分泌の臨床的評価（pHモニタリング）も行っていました。

獨協医大日光医療センターでの勤務を経て2011年より今市にて開業しています。

当院では一般内科診療のほか消化器内科特に胃および大腸内視鏡検査に力を入れており、いずれの検査も希望があれば鎮静剤を用い苦痛の少ない検査になるよう心がけています。そして、内視鏡切除の適応のある患者様の多くは、栃木医療センターで吉竹先生、小池先生をはじめ消化器内科の先生に治療していただき大変助けられています。さらに内科に限らず、小児科、外科、産婦人科、耳鼻科をはじめ全診療科にお世話になっており、救急や時間外の診療も快く応じてくれて頂き感謝の念に堪えません。患者様も栃木医療センターの診療に全幅の信頼を寄せて感謝しています。

今後も栃木医療センターとの医療連携により地域医療に貢献していきたいと思います。



ご案内

診療科目 内科・消化器内科・呼吸器内科
循環器内科・内視鏡内科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00 ~ 12:00	○	○	○	○	○	○	—
午後 3:00 ~ 6:30	○	○	—	○	○	△	—

△ 第1・3・5 土曜日の午後は2:00~4:00 まで受付
第2・4 土曜日の午後は予約検査のみ

休診 水曜日午後・日曜・祝日



〒 321-1273 栃木県日光市吉沢239-9 TEL 0288-25-3120

◎ 日常でできる身近な感染防止対策 ◎

★正しい手指衛生の方法（①手洗い②アルコール消毒が有効）

- ＜方法＞ ①手洗いは流水で手を濡らし石けんで泡を立ててから手のひら、手の甲、指の間、親指、爪先、手首を30秒かけて擦り洗います。
②アルコール消毒は最初に爪先をつけてまんべんなく消毒剤が乾燥するまで手全体に擦りこむ。

＜タイミング＞ 帰宅時、食事の前、咳やくしゃみが手に付いた時、手が汚れた時など



★正しいマスクの使用方法

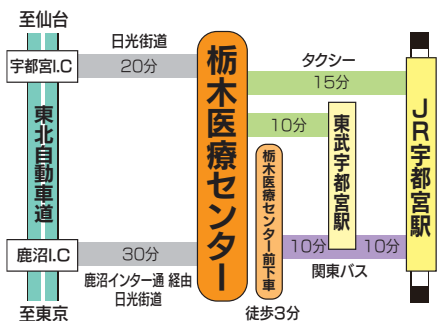
- ＜着け方＞ 隙間があるところからくしゃみなどの際に出るしぶきが周りに飛散し、入りやすくなるので隙間をなくすように、鼻・頬・顎に合わせて鼻・口を覆う。
＜着用中＞ マスク表面にはなるべく触れないようにする。
会話をするときにはマスクを外さない。
＜外し方＞ ゴムの部分を持って耳から外し、マスク本体に触れないように捨てる。



★咳エチケット

咳をしている人はマスクを着用する。マスクを着用していない場合には咳・くしゃみをする際にはティッシュなどで口と鼻を押さえ、ほかの人から顔をそむけ1m以上離れる。

交通のご案内



発行人

独立行政法人国立病院機構

栃木医療センター

院長 長谷川 親太郎

〒320-8580

栃木県宇都宮市中戸祭1-10-37

TEL. 028-622-5241

FAX. 028-625-2718

URL. <https://tochigi.hosp.go.jp/>

